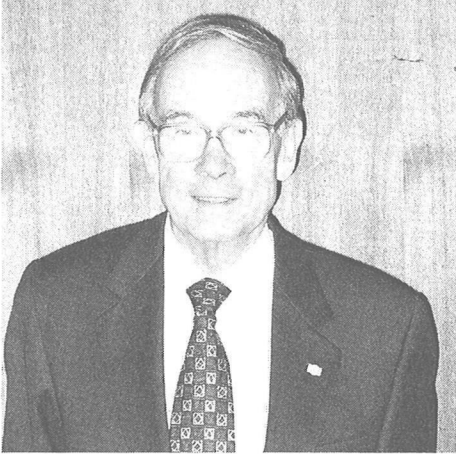


‘日本数学会関孝和賞’

第二回受賞者 フリードリッヒ・ヒルツェブルッフ教授



社団法人日本数学会は、1994年度に、数学の業績以外で数学の発展に寄与し、学術文化の向上発展に著しい貢献をした個人および団体の業績を顕彰し、併せて日本数学会の活動を広く世に知らせるために、日本数学会関孝和賞を制定した。この度、マックス・プランク数学研究所前所長、フリードリッヒ・ヒルツェブルッフ教授を第二回受賞者とすることを決めた。

ヒルツェブルッフ教授は、若手研究者を長期的に招聘し、多くの優れた数学者を育てる目的で1969年より、ドイツ学術振興会の援助によりボン大学に特別研究領域 40「理論数学」を創設した。特別研究領域 40の

招待により長期間ボン大学に滞在し研究を行った日本人数学者は30名を越える。

その後、1980年にはボンにマックス・プランク数学研究所を創設し、所長として1995年に定年退官されるまでこの職にあった。ヒルツェブルッフ教授はマックス・プランク数学研究所にも海外から若手数学者を積極的に招聘し、日本からこの機関を訪問し研究に従事した数学者は百名以上のほる。

このように多くの数学者が、ボン大学、マックス・プランク数学研究所に滞在し、ヒルツェブルッフ教授の指導を受け、諸外国の数学者と幅広い交流のなかで研究を行ったことは、日本の数学の発展にとって極めて重要な役割を果たした。

フリードリッヒ・ヒルツェブルッフ教授のこのような長年にわたる功績は、日本のみならず世界の数学の進展に大きく貢献するものであり、日本数学会関孝和賞にふさわしいものである。

社団法人日本数学会
1995年度理事会

日本数学会関孝和賞受賞者 Friedrich Hirzebruch 教授の業績

上野健爾

ヒルツェブルッフ教授はリーマン・ロッホ・ヒルツェブルッフの定理をはじめとしてトポロジー、代数幾何学で重要な業績を挙げた今世紀を代表する数学者の一人で

あるが、それだけにとどまらずボン大学に特別研究領域 40「理論数学」を、その後マックス・プランク数学研究所を創設され、全世界から若手数学者を積極的に招待し